

第11回

たかつき能楽に
親しむ会

たかつき能

企画・演出・指導／田中隆夫

石橋

能
樂

半能

深浦田
貴彦

太獅子

◆ちびっ子連吟・仕舞隊

◆仕舞「熊野」田中 隆夫他

◆舞離子「羽衣」浦田 保親他

◆狂言「察化」茂山 逸平他

とき 令和6年3月2日(土)
12時開場 13時開演

ところ 高槻城公園芸術文化劇場
トリシマ大ホール 〈全席自由〉
問合せ 電話 072-671-1061
受付時間／10時～17時 月曜休館(祝日を除く)



田中隆夫(観世流)



浦田保浩(観世流)



茂山逸平(大蔵流)

入場料

	前売り	当日券
一般	2,500円	3,500円
大学・高校生	1,000円	2,000円

※高槻文化友の会会員の方は、高槻城公園芸術文化劇場南館1階事務所でお買い求めの前売り券のみ割引されます。

※中学生以下は無料です。※学生は学生証を提示して下さい。

※未就学児の入場はご遠慮下さい。

※当日はお茶席を設けておりますのでご利用下さい。

チケットは、1月6日(土)より●高槻城公園芸術文化劇場南館1階事務所●JR高槻駅観光案内所

●高槻市観光協会事務所(エミル高槻2F)にて販売致します。

主催／たかつき能楽に親しむ会 共催／(公財)高槻市文化スポーツ振興事業団

後援／大阪府・大阪府教育委員会・高槻市・高槻市教育委員会・島本町・島本町教育委員会

(福)高槻市社会福祉協議会・(福)島本町社会福祉協議会・高槻商工会議所・島本町商工会

(公社)高槻市観光協会・高槻市文化団体協議会・高槻市謡曲連合会・(一社)高槻市薬剤師会

協力・協賛／サンスター(株)・阪急電鉄(株)・J:COM高槻・池下享子協賛茶席

——能楽は、ユネスコの世界無形文化遺産に指定されています。——

私たちは能楽を通じて、古典芸能への理解を深める活動を行っています。



SINCE 2009

令和六年三月二日（土）午後一時始

第十一回 たかつき市民能

於・高槻城公園芸術文化劇場トリシマホール

連吟（田中千謡会ちびっ子連吟隊）・仕舞（ちびっ子仕舞隊）

たかつき能楽に親しむ会会長
ご挨拶
高槻市長
榎本

羽衣
和合之舞
天人浦田保親
舞囃子
谷口正壽
曾和鼓堂
河樹村下浩太郎慧
左鴻泰弘
井上敬介
濱田剛忠
金田史行

熊野
仕舞
田中隆夫
狂言
太郎冠者茂山逸平
休憩（三十分）
主主人山下守之
すっぱ茂山下守之
後見柴田茂之
後見柴田茂之
河越松山
村賀野崎
和隆浩浩
貴之行之

察化

解説「本日の曲目について」
京都府立大学名誉教授 山崎福之

石橋
深浦野田貴保彦浩
大獅子原後見深味野方新次郎團
能樂
狂言
太郎冠者茂山逸平
休憩（三十分）
主主人山下守之
すっぱ茂山下守之
後見柴田茂之
後見柴田茂之
河越松山
村賀野崎
和隆浩浩
貴之行之

曾谷口正壽
和鼓堂山崎福之
河越松山
村賀野崎
和隆浩浩
貴之行之

台後見樹河水宮河
下村田本村
千和雄茂和
慧晃晤樹貴
山河越浦松
崎村賀田野
浩浩隆保浩
太之郎之親行弘介

大獅子原後見深味野方新次郎團
能樂
狂言
太郎冠者茂山逸平
休憩（三十分）
主主人山下守之
すっぱ茂山下守之
後見柴田茂之
後見柴田茂之
河越松山
村賀野崎
和隆浩浩
貴之行之

附祝言

終了予定
午後四時十五分

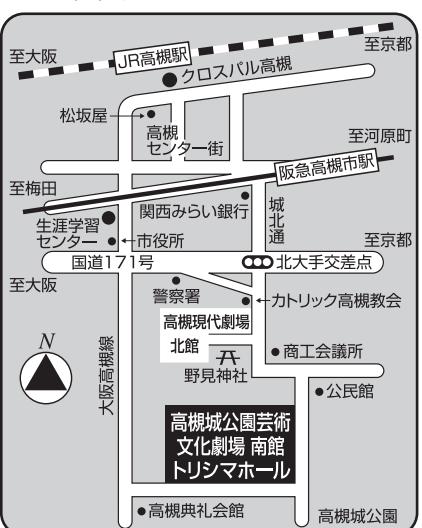
たかつき能楽に親しむ会副会長

ご挨拶
お楽しみ抽選会

川崎昭博

お客様へのお願い

- ★写真撮影・録音は固くお断りいたします。
- ★都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承下さい。



高槻市野見町6-8

- 阪急高槻市駅から徒歩8分
- JR高槻駅から徒歩13分
- 駐車場（有料）に限りがありますので、車でのご来場はお控え下さい。

◆能楽「石橋(しゃつきょう)」

観能の手引き

「石橋」は能の中でも最も豪華絢爛な舞台であり、祝賀会や記念会などの特別な催しで演じられる。中入後を半能として演じる事が多い。

大江定基は、出家して寂昭法師となり、中国山西省の清涼山に参詣した。ここには石橋という不思議な橋があって、下は千丈の谷、橋のむこうは文殊菩薩の淨土である。そこへ一人の樵の翁（実は文殊菩薩の化身）が現われて、たやすく渡れない橋であると寂昭をいましめ、橋の奇瑞を語る。自然に弓形に岩石がつらなってできたこの橋は、幅が一尺もないうえに、なめらかな苔で覆われ、上から滝がはげしい音とともに下の滝壺に落ちている。目もくらむばかりに恐ろしく、よほどの法力がないと渡ることはできない。童子は、菩薩の来現を待つようにと言い残して消えてしまう。（中入）

寂昭法師が奇瑞を挙もうと待っていると、深山幽谷の静寂のうちに、対岸に咲き乱れる紅白の牡丹の花から露の滴る音が響く。やがてその静寂を破って文殊菩薩の愛獣・獅子が勢いよく現われ、石橋の上で激しく舞い戯れるのだった。

「大獅子」や「連獅子」などの小書の時は、赤白二頭の獅子が現れ、白獅子（親）は威厳を以て莊重に、赤獅子（子）は俊敏軽快に舞う。途中、石橋に見立てた一畳台から白獅子が赤獅子を蹴落とす「獅子の子落とし」の型がある。

解説／京都府立大学名誉教授 山崎 福之